

令和 8 年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

ひまわり学級

教科	指導上の課題の分析	授業改善の具体的な方策	評価（成果と課題）
国語・算数	○発達段階や特性上、一斉指導での学習についていくのが難しい児童がいる。 ○文章の理解力が十分でなく、読解問題や文章題からの立式が難しい。 ○前年度までの学習内容が定着していない児童が多い。	○グループで一斉指導した後に、課題の内容や分量を個別に調整して問題演習に取り組ませる。 ○個別演習のプリントに蛍光ペンなどで色分けをして、出題内容と対応する部分を児童が自分で判別できるようにする。また、具体物・図・数直線などで可視化して理解しやすくする。 ○モジュールでの朝学習や家庭学習などの個別課題で、既習漢字や九九などの復習を継続的に実施する。	
体育	○同じ学年でも体力差が大きく、同じ活動の中で差が出てきてしまう。 ○学級全体での一斉活動に参加する意欲をもてない児童がいる。	○活動内容をレベル別のグループに分け、自分に合ったレベルをその都度選んで活動に取り組めるようにする。 ○運動する場所や参加する時間を児童と相談し、個別に支援員を配置して運動の支援や安全管理を行う。	
音楽	○歌う際に力の入れ方が安定せず、常に大声や裏声、小声になってしまう。 ○聴覚過敏だったり密集した環境が苦手だったりして、教室に入れない児童がいる。	○導入で発声練習を取り入れ、伴奏に合わせて少しずつ、ゆっくりと歌うように指導する。 ○イヤーマフを使ったり、廊下から参加させたりするなど、児童が無理なく活動できる場を設定する。	
図工	○これから作る作品の完成イメージをもちにくかったり、制作手順が理解できなかったりする児童がいる。 ○交流および共同学習への参加などの影響で、作品作りに時間を取れない児童がいる。	○パワーポイントを使って制作手順や出来上がりの見本を提示することで、活動の見通しをもたせる。 ○作品づくりを月 1 回の図工だけでなく、週の中に作品作りをする時間を小分けにして確保しておき、交流の有無に関係なく安心して取り組める環境を整える。	

生活 単 元	○「ルールを守ってあそぼう」では、児童が提案する内容が偏ってしまうことが多い。 ○児童の間でコミュニケーションスキルの差が大きく、一律のソーシャルスキルトレーニングを行うことが難しい。	○2～3か月に1回のサイクルで新しいグループを編成し、初回は教師から室内でできる遊びの内容を提案する。 ○児童の実態を考慮してグループを編成し、指導目標を共通化した上で実態に合わせた活動を各教室で実施する。	
生活 ・ 総 合	○外国語活動では、児童がALTからの指示や活動内容を理解しきれないことがある。 ○学年課題学習として、該当学年の学習内容から精選して指導しているが、理解力に差が大きい学年もある。	○担任が必要に応じて日本語で説明を補足したり、一緒に活動したりして児童の理解を促す。2学年ごとのグループでALTの指示に集中しやすいよう環境の調整をする。 ○社会・理科・生活科などを中心に、生活上必要な知識を増やしたり、技能を高めたりする。学年の実態、個の実態に合わせた内容を工夫し、授業時数を確保する。また、学習内容を精選し、指導していく。	